

# 決算説明会

## 2019年3月期 第1四半期

**ミネベアミツミ株式会社**

2018年8月3日

吉田です。

本日は、私より2019年3月期 第1四半期の連結実績についてご説明申し上げ、その後、代表取締役会長兼社長の貝沼より機械加工、電子機器、ミツミ、の各事業の概要をご説明申し上げます。

なお、本四半期より、従前はご説明申し上げておりました棚卸資産・販管費の推移等のデータは参考資料として添付させていただいておりますが、本日の説明では省略させていただきますのでご了承のほどお願いいたします。

## 売上高は第1四半期として過去最高

[ IFRS ]

(百万円)	2018年3月期		2019年3月期	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	1Q	4Q	1Q		
売上高	195,069	224,246	213,038	+9.2%	-5.0%
営業利益	16,698	6,453	14,291	-14.4%	2.2倍
税引前利益	16,176	5,497	14,170	-12.4%	2.6倍
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	12,603	1,814	10,886	-13.6%	6.0倍
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	29.77	4.44	25.95	-12.8%	5.8倍

為替レート	18/3期1Q	18/3期4Q	19/3期1Q
US\$	111.48円	109.72円	108.10円
ユーロ	121.53円	133.77円	129.88円
タイバーツ	3.24円	3.45円	3.42円
人民元	16.18円	17.16円	17.02円

2018/8/3

2

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

2019年3月期第1四半期の連結業績は、売上高は、前年同期比で9.2%増、前四半期比で5.0%減の2,130億3,800万円でした。

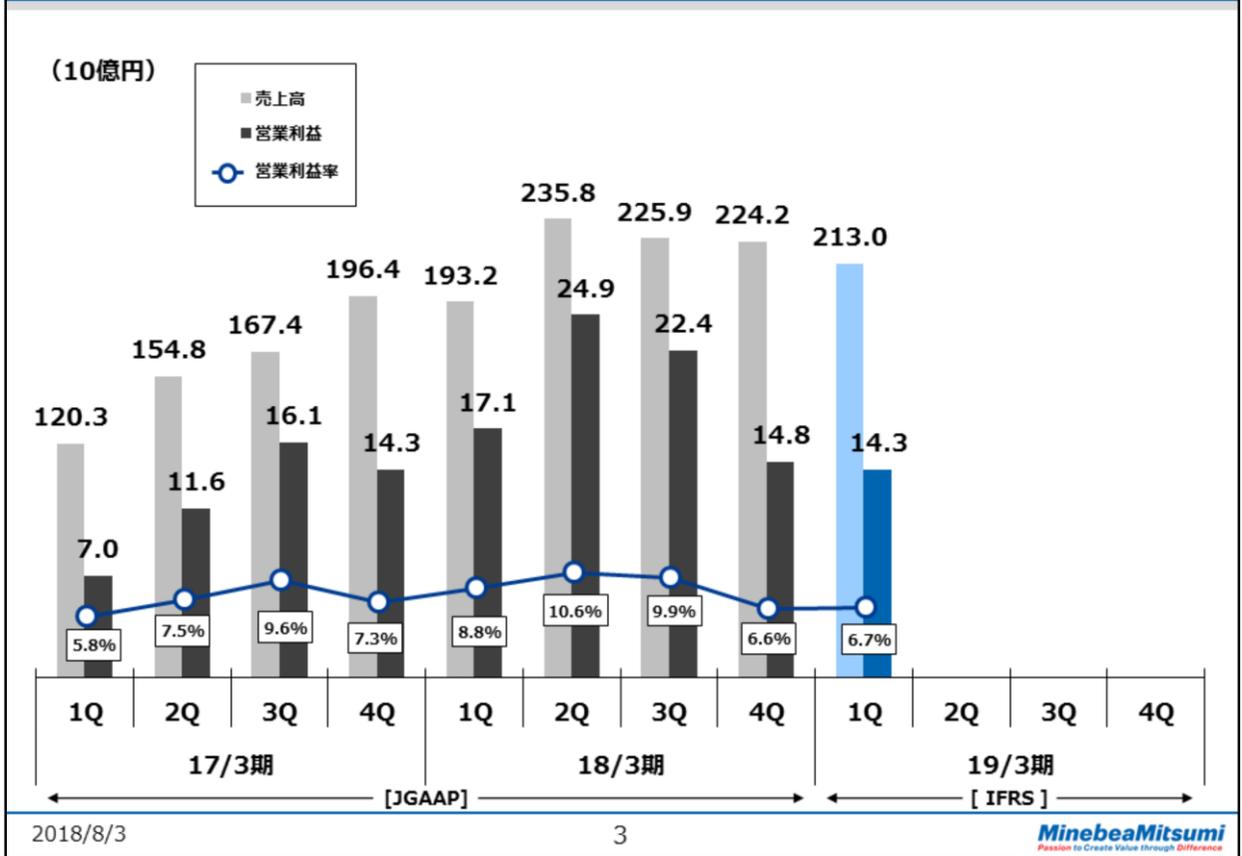
営業利益は、前年同期比で14.4%減、前四半期比で2.2倍の142億9,100万円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比で13.6%減、前四半期比で6.0倍の108億8,600万円となりました。

売上高において、第1四半期として過去最高となりました。これは、ボールベアリング、モーターなどの事業が堅調に推移したことに加え、2018年3月期第4四半期からのミツミ事業における契約変更に伴う売上高計上金額の増加の影響が含まれています。為替の影響は、売上高で前四半期比マイナス24億円、前年同期比マイナス25億円、営業利益で前四半期比マイナス7億円、前年同期比マイナス26億円、との推計です。

また当社は、今期(2019年3月期)より、日本基準(JGAAP)に替えて国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。前期実績および前年同期実績におけるJGAAPとIFRSの差異については、参考資料(16・17ページ)にて説明していますのでご参照ください。

前期実績についてIFRSを適用すると、営業利益は792億円から689億円となり、約100億円の減少となります。差異の主な内訳は、特別損失が営業利益へ組み替えられるなど、主に一過性のものとなります。一方、一過性ではないものとしては、これまで販管費に含まれていた「のれん」の償却費がなくなることにより、約12億のプラス、一部営業外収益の組替により、約3億円のプラスなどがあります。

また、2019年3月期第1四半期実績について、仮にJGAAPの適用を継続していた場合には、主にのれん償却の取り扱いの違いにより、営業利益は概算で3億円程度減少するものと試算しています。

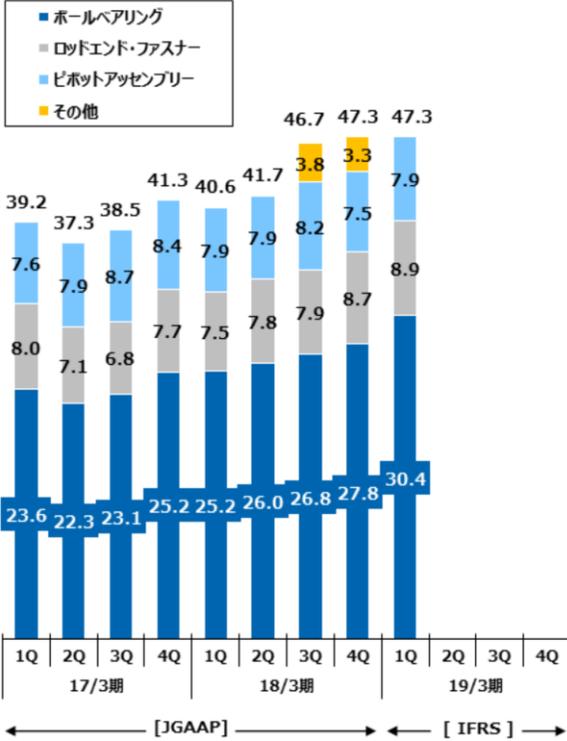


売上高、営業利益、営業利益率の四半期ごとの推移です。  
左側の棒グラフが売上高を、右側の棒グラフが営業利益を、折れ線グラフが営業利益率を示しています。

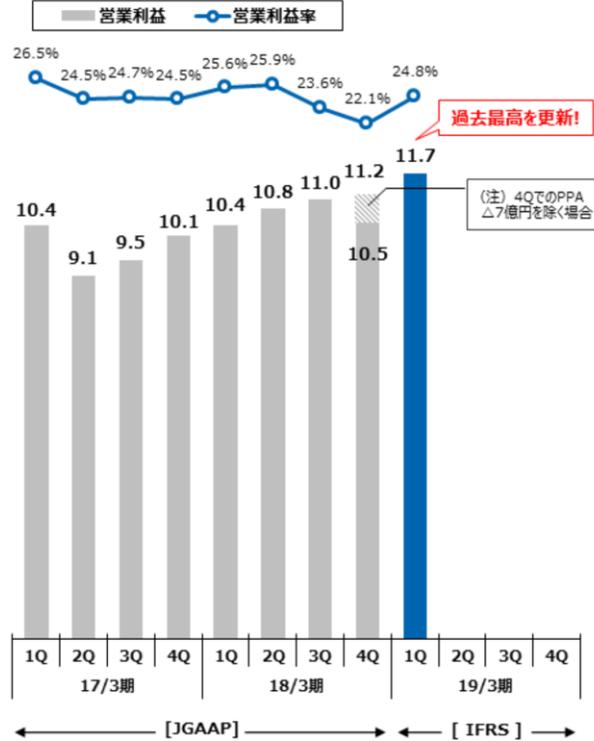
第1四半期の営業利益率は、6.7%となりました。これは前年同期比では2.1ポイント低下、前四半期比では0.1ポイントの上昇となりますが、一昨年の同期と比較した場合には、売上高、営業利益ともに約2倍、営業利益率で約1ポイントの改善となっており、ミツミとの経営統合による成果が大きく出てきています。

なお、これまでの発表数値のリファレンスのため、前期(2018年3月期)以前の実績値をJGAAPにて表示、説明しています。この後も同様となりますのでご注意ください。

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



過去最高を更新!

(注) 4QでのPPA △7億円を除く場合

2018/8/3

4

MinebeaMitsumi

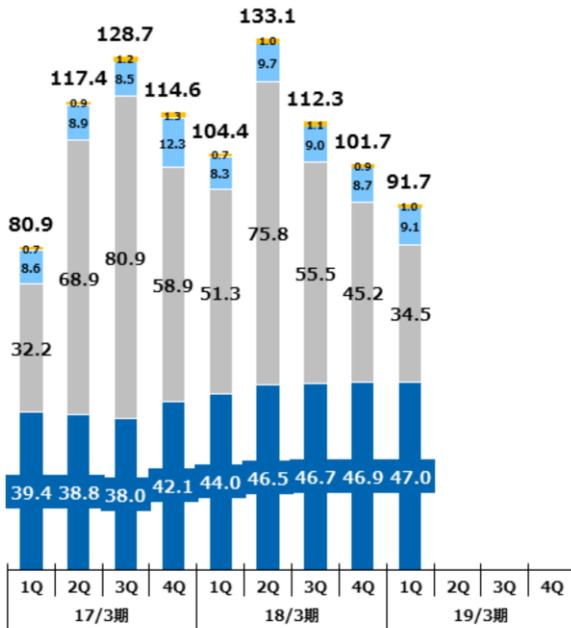
次に各セグメントの状況について、まず機械加工品事業セグメントについてご説明します。左側のグラフが四半期ごとの売上高の推移を、右側のグラフは棒グラフが営業利益、折れ線グラフが営業利益率を表しています。

第1四半期の売上高は、前四半期から横ばいの473億円となりました。ボールベアリングの売上高は304億円、前四半期比で9%の増加となりました。ボールベアリングの数量ですが、外販数量は月平均で過去最高の2億300万個となり、23四半期連続で前年同期を上回りました。また生産数量は、5月に過去最高となる2億9,600万個に達しました。ロッドエンド・ファスナーの売上高は89億円となり、前四半期比で2%の増加でした。ピボットアッセンブリーは79億円となり、前四半期比で5%の増加でした。当社シェアは80%超を維持しており、安定的に収益に貢献しています。なお今期より、「その他」にて計上しておりましたC&A Tool engineeringをボールベアリングに、Mach Aeroをロッドエンド・ファスナーに含めて計上しています。

営業利益ですが、当四半期は117億円、営業利益率は24.8%となり、営業利益額として過去最高を更新しました。前四半期比では営業利益で12%の増加、営業利益率では2.7ポイントの上昇となります。製品別では、ボールベアリング、ロッドエンド・ファスナー、ピボットアッセンブリーすべて前四半期比で増益となりました。

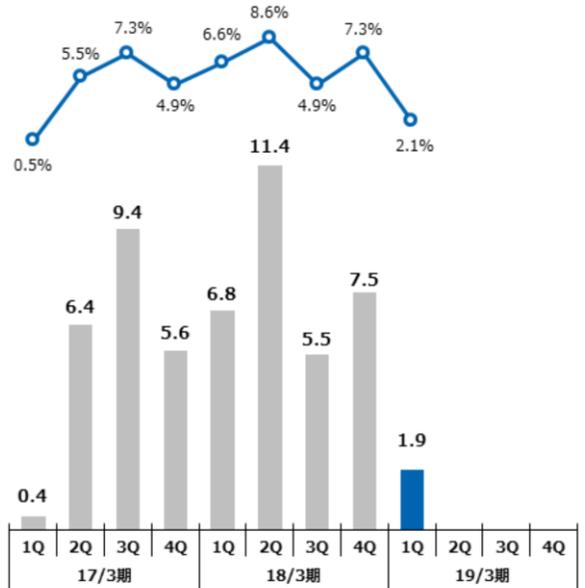
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ● 営業利益率



2018/8/3

5

MinebeaMitsumi

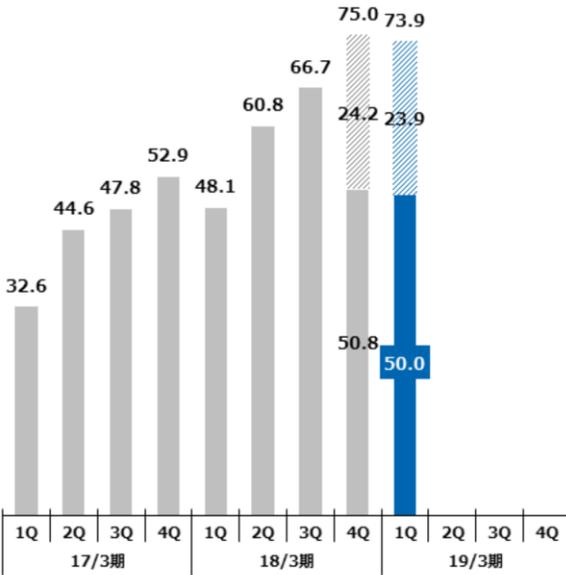
次に、電子機器事業セグメントについてご説明します。

売上高は917億円、前四半期比で10%減となりました。製品別では、モーターは前四半期から横ばいの470億円で、自動車向けを中心に堅調に推移しました。エレクトロデバイスは345億円、前四半期から24%の減少となりました。これは主にスマートフォン市場の縮小によるものです。センシングデバイスの売上高は91億円となり、前四半期比で5%増加しました。

営業利益は19億円、営業利益率は2.1%となりました。前四半期比では営業利益で75%減、営業利益率で5.2ポイント低下となりました。製品別では、モーターおよびセンシングデバイスは堅調に推移したものの、エレクトロデバイスではスマートフォン市場における在庫調整による稼働減などにより、収益が落ち込みました。

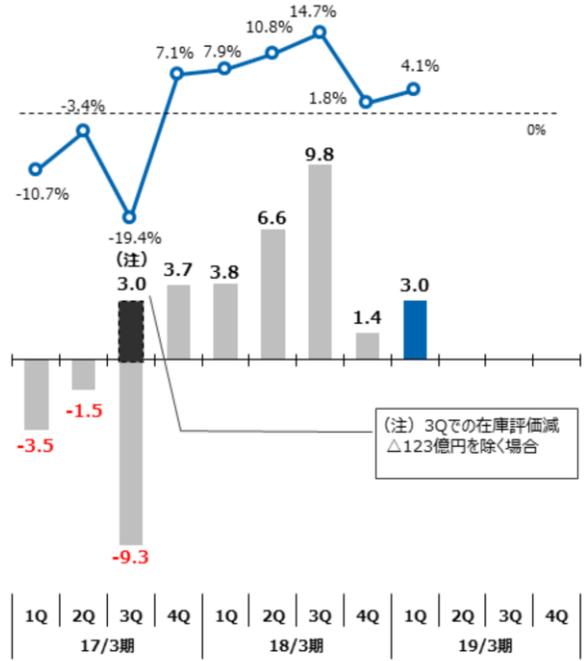
## 売上高 (10億円)

※ 契約変更に伴う売上高計上金額の増加



## 営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率



(注) 3Qでの在庫評価減  
△123億円を除く場合

2018/8/3

6

MinebeaMitsumi

最後にミツミ事業セグメントについてご説明します。

売上高は739億円、前四半期からほぼ横ばいとなりました。これは、機構部品の売上高が若干減少した一方で、カメラ用アクチュエーターの売上高が増加したことによります。なお、顧客との契約変更による売上の増加影響は、前四半期は242億円に対し、当四半期は239億円となりました。

営業利益は30億円、営業利益率は4.1%となりました。前四半期比では、営業利益は2.2倍、営業利益率は2.3ポイントの上昇となりました。

## 通期業績予想を上方修正

[ IFRS ]

(百万円)	2018年3月期	2019年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	881,413	453,800	486,200	940,000	+6.6%
営業利益	68,902	34,000	51,000	85,000	+23.4%
税引前利益	66,855	33,500	50,500	84,000	+25.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	50,326	26,300	39,700	66,000	+31.1%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	119.61	62.70	94.64	157.34	+31.5%

為替レート	18/3期 通期	19/3期 2Q-4Q想定
US\$	111.19円	105.00円
ユーロ	129.36円	130.00円
タイバツ	3.35円	3.39円
人民元	16.70円	16.90円

2018/8/3

7

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

これは、今期2019年3月期の業績予想をまとめたものです。

利益について、第1四半期の実績が当初の見込みを上回ったことから、その一部を反映し、業績予想を上方修正しました。通期では、営業利益は830億円から20億円上方修正し850億円、当期利益は650億円から10億円上方修正し660億円とします。

なお、為替市場やスマホなどの市場動向に不透明感が残ることから、保守的に見積もっています。

為替レートは1ドル105円を想定しています。

## [ IFRS ]

(百万円)	2018年3月期	2019年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	881,413	453,800	486,200	940,000	+6.6%
機械加工品	176,427	94,500	95,500	190,000	+7.7%
電子機器	451,879	174,400	225,600	400,000	-11.5%
ミツミ事業	252,415	184,400	164,600	349,000	+38.3%
その他	693	500	500	1,000	+44.3%
営業利益	68,902	34,000	51,000	85,000	+23.4%
機械加工品	41,007	24,000	25,500	49,500	+20.7%
電子機器	24,096	6,400	19,600	26,000	+7.9%
ミツミ事業	20,069	11,000	15,000	26,000	+29.6%
その他	△806	△300	△200	△500	-38.0%
調整額	△15,463	△7,100	△8,900	△16,000	+3.5%

こちらは、各事業セグメント別の予想です。

## 利益分配の方針

中期事業計画に基づいて創出されるフリーキャッシュフローは、国内外のM&Aを含む**成長投資を最優先**する一方で、株主還元については**配当性向20%程度**を目途とした安定的な配当を目指す。また、成長投資とのバランスに鑑みた**機動的な自己株式の取得**も検討し、資本効率の向上をはかる。

## 今期配当予想

**配当性向20%**程度を目途に決定

次に株主還元策についてご説明します。  
前期は、1株当たり26円と大幅な増配を実施しましたが、今期の配当は連結配当性向20%程度を目処に決定する予定です。

## 「MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)」への組み入れ



2018 Constituent  
MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)

### MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータおよび企業の開示情報から、MSCI社が多面的にスコアを算出し、各業種の中で女性の活躍が認められる企業を選定する。  
年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) が日本株のESG投資に採用した指数のひとつ。

## 「統合報告書2018」の発行 (予定)

～当社の中長期の成長戦略や価値創造ストーリーのご説明ツールとして～



2018/8/3

10

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

次に、当社のESGへの取り組みについて、最近のトピックスを2点ご説明します。

まず1点目ですが、2018年6月より、当社はMSCI社が提供する「MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)」に組み入れられました。当社のダイバーシティ推進や、積極的な情報開示の姿勢を、ご評価いただけたものと考えています。

2点目ですが、当社の中長期の成長戦略や価値創造ストーリーを明確に説明することを目指して、統合報告書の発行を予定しています。当社の強みや持続的な成長のための考え方などをご理解いただく一助となればと考えています。

発行の際には別途ご案内させていただきますので、ぜひご覧ください。  
以上で私からのご説明を終わります。

## 本日のポイント

- **全体**：1Qは**期初計画を大幅に上回る好調なスタート**。  
(前年比の減益は、当初から想定内)
- **機械加工品**：ボールベアリングの**生産数 3億個を達成**。  
**引き続き業績拡大へ**。
- **電子機器**：LEDバックライトは**良好な立ち上がり**を予想。  
モーターは**引き続き堅調に推移**。
- **ミツミ事業**：不需要期にも関わらず**順調以上のパフォーマンス**。  
生産性向上やコスト削減など、**積み上げてきた構造改革の成果**。
- **市場環境の不透明さから、営業利益1Q過達分の半分を  
今期営業利益の計画に反映して上方修正**

2018/8/3

11

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

貝沼です。

今回から1Qと3Qの決算電話会議に私も参加させていただくことといたしました。憶測を呼んだようなこともあったようですが、特別な発表はございません。

全体では非常によいスタートが切れたと思っています。

前半から飛ばせた前期と異なり、今年はLEDバックライトやゲームの状況により後半型、追い込み型です。

1Qの営業利益は100億円を想定していましたが、140億円となりました。これから3四半期あり、まだ不透明な部分もあるため、この40億円のうちの半分を上方修正しました。

とにかく機械加工品は絶好調で、思った通りのパフォーマンスを上げています。

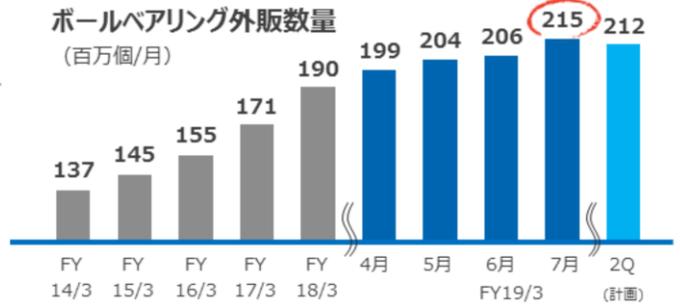
LEDバックライトも心配していましたが、生産技術的なヤマは越えたと認識しており、気分的には楽になってきました。

# 機械加工品事業の状況

## 1Qは極めて順調なスタート

### ボールベアリング事業

- 外販は7月に過去最高を更新！  
1Qは **23**四半期連続でYoY増加  
かつ **5**四半期連続でQoQ増加



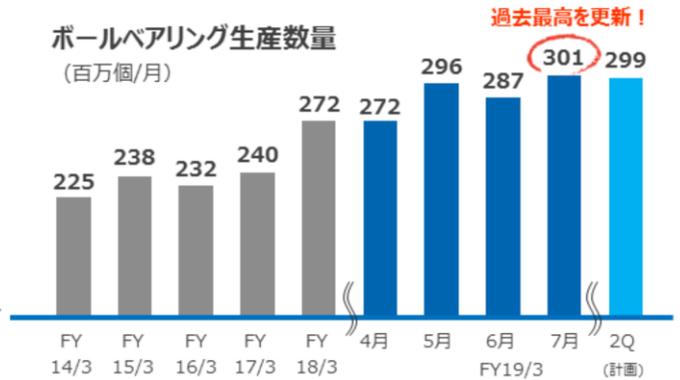
- 生産は7月に**3億個**達成！

来期**3億1,500万個**へ

- 在庫は今後は適正水準に向かい  
一過性費用は下半期より減少へ
- 価格改定は3Qから一部反映へ

### ボールベアリング生産数量

(百万個/月)



### ロッドエンド・ファスナー事業

- ファスナーの収益改善**に確かな手ごたえ

2018/8/3

12

MinebeaMitsumi

Passion to Create Value through Difference

ボールベアリングは、1Qは23四半期連続で前年同期比増加しています。このような製品はなかなかないと思いますが、まだ止まらないのが実際のところです。

7月は2億1,500百万個の外販を達成し、またレコードを記録しました。生産数も、8-9月に届けばよいと思っていた3億個を超えて、7月には3億100万個の過去最高を生産しました。内販とあわせた販売数も7月には2億9,400百万個となり、需給ともに引き上げることに成功しました。

来年7月には3億1,500百万個の生産達成を目指していますが、前回投資した機械が入ってくるのは来年からになります。これから先は需給バランスがまだ心配です。毎回、四半期ごとに踊り場があるのではないかと思い、4-5か月後にエア代削減という話をしてきましたが、実際のところは今日にいたるまでできていません。先月は1億円近いエア代を使っています。やはり踊り場が続いてもらえないと、なかなかエア代の削減は難しいです。

一方で、値上げの効果が徐々に反映されはじめており、10月頃からは月1億円を超えるくらいの値上げ効果が出てくるとの報告を受けています。

予想外に力強いのはC&Aを含むNHBBグループで、利益率が大きく改善してきています。主な要因は2-3年のLTA(Long term agreement)の更新で、前回の更新の時期は、市場価格が悪かったものが失効してきています。現在新しいLTAを結ぼうとしていますが、マーケットの引きが強く売値が改善されてきているなかでのリニューアルとなり、航空機関連で安定した収益が実現できていると思っています。またMach Aeroを中心とするインドのオフセットビジネスも良い話が来始めていますので、これらの去年買収した二社は、これから数年、強い収益力の補強になると考えています。

ファスナーも、毎月藤沢に行っていますが、収益が予定通り改善してきて、完全な黒字になっています。

このように、機械加工品は力強いです。今期495億円の利益を予定していますが、これは達成できると思っています。機械加工品で500億円の利益が出てくれると、私どもの収益力も上がってくると思います。

## LEDバックライトは良好な立ち上がりを予想 モーターは引き続き堅調に推移

### LEDバックライト事業

- 今期モデルは技術的難易度が高いが **良好な立ち上がりを予想**
- 収益見通しは、引き続き **保守的に想定**
- 来期以降も、**確かな事業機会が継続と予想**
- 有機EL対抗ディスプレイの開発は サプライチェーンで実施中

### モーター事業

- モーターは **自動車を中心に引き続き堅調に推移**
- **スロバキア工場**が稼働スタート

モーター事業 売上計画 (億円)



LEDバックライトは大変ご心配をおかけしており、株価もそれを反映して落ちていましたが、おかげさまでこのLEDバックライトの生産技術的なヤマは越えたとの報告を受けています。生産も後ろ倒しの予定が前倒しになり、今は毎週ラインを立ち上げています。どのくらい新製品が売れるかわかりませんが、LEDバックライトの立ち上げについてはもう心配しなくてよいと思っています。

モーターは引き続き堅調です。6月にスロバキア工場の開所式をおこないましたが、多くの欧州のメーカーから強い期待をいただいていますので、この1-2年以内に確実に大きな拡大の武器になると考えています。

# 1Qは不需要期ながらも利益は大きくアウトパフォーム 通期業績予想は引き続き保守的に想定

### 光デバイス事業

- 新機種向けはきわめて良好な立ち上がり  
(品質、歩留まりとも想定と大きな変化なし)
- 中国スマホもスペックアップで力強い事業機会

### 機構部品事業

- 1Q収益は想定を大きく上回る
- 2Q以降は本格的な需要期へ



先ほどの説明にもありました通り、予想より良い業績で終わりました。光デバイスが貢献を始めており、中でも中国スマホでスペックアップが始まっていることから、私どもへの引き合いが強くなっています。

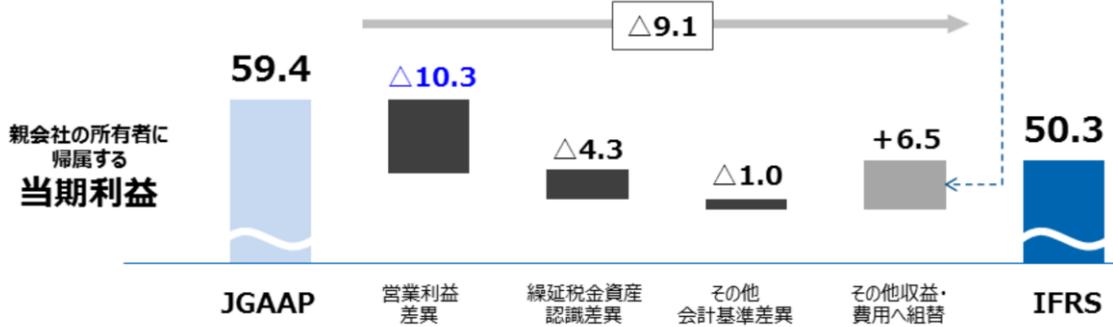
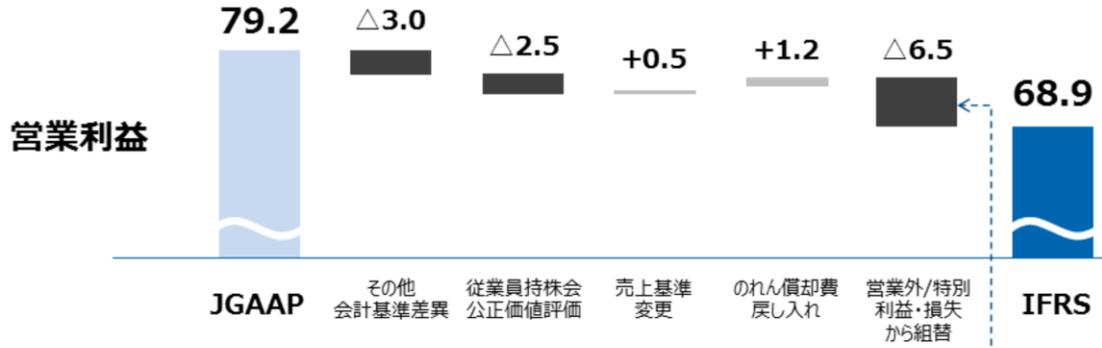
その他の事業も改善されてきており、アナログ半導体も絶好調になっており、そういったもろもろの事業の収益改善が効いてきているのは間違いがないと思います。

そうはいつでも2つの柱である光デバイスと機構部品が大きな収益源であることは間違いありませんので、今後の動向を注視しなければならないと思っています。ゲームは、お客様の見通しはまだ強いものがありますので、引き続き要求のある数量を作っていくことによって、後半戦も期待できるのではないかと考えています。

# 参考資料

# 2018年3月期 JGAAPとIFRSの差異

(10億円)



2018/8/3

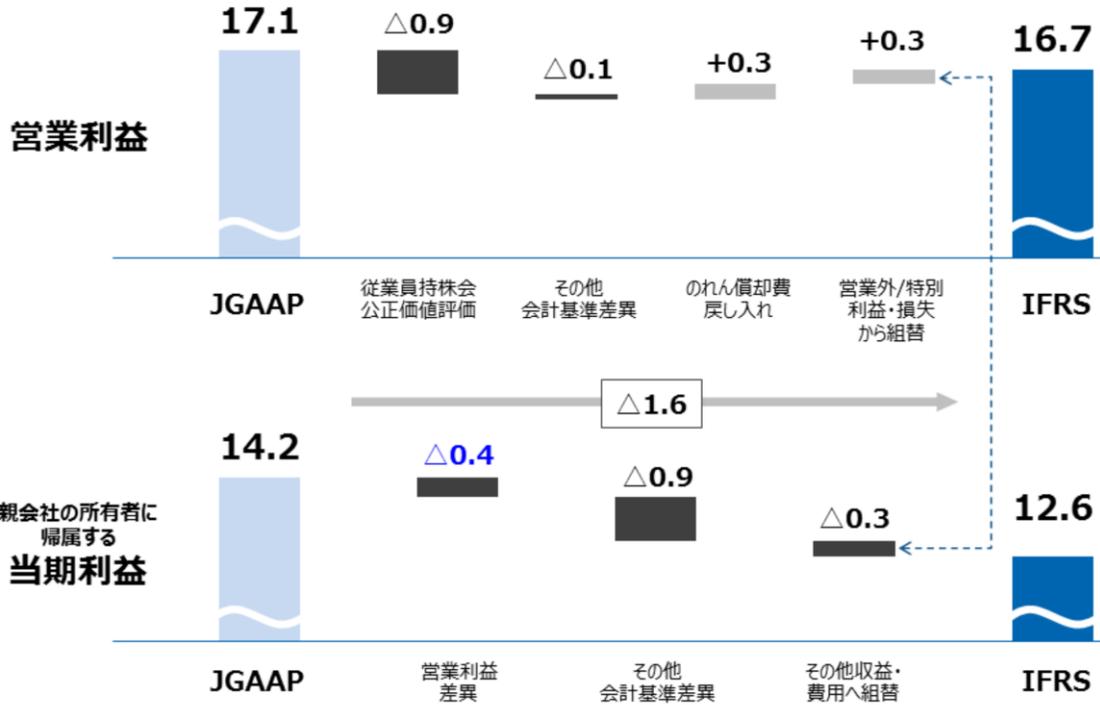
16

MinebeaMitsumi

Passion to Create Value through Difference

# 2018年3月期 第1四半期 JGAAPとIFRSの差異

(10億円)

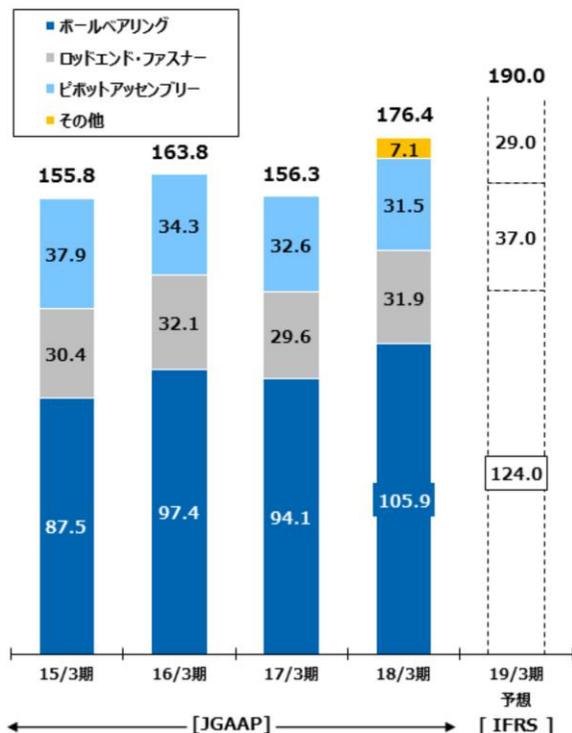


2018/8/3

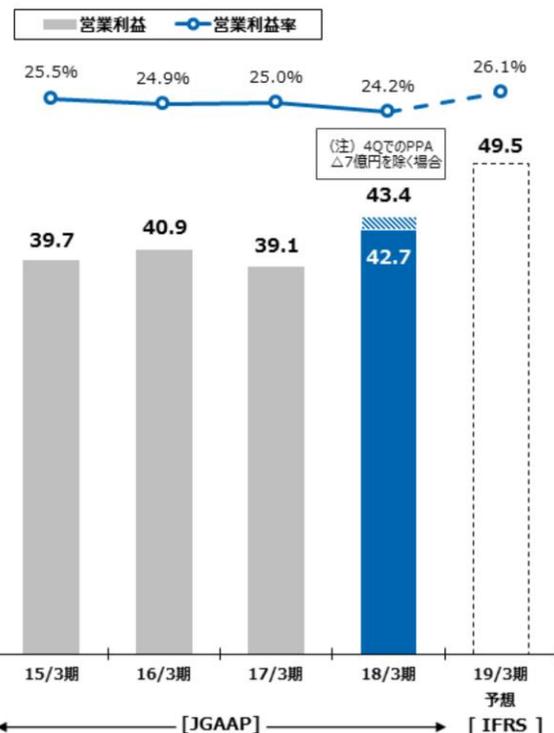
17

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

## 売上高 (10億円)



## 営業利益 (10億円)

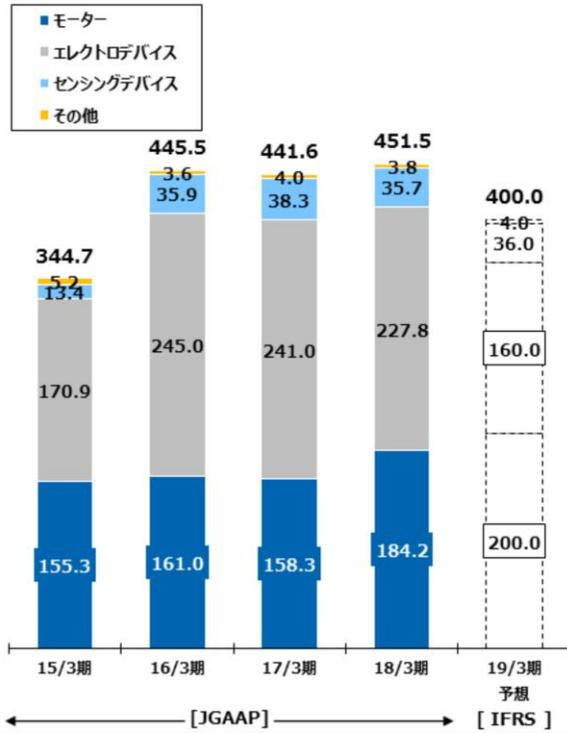


2018/8/3

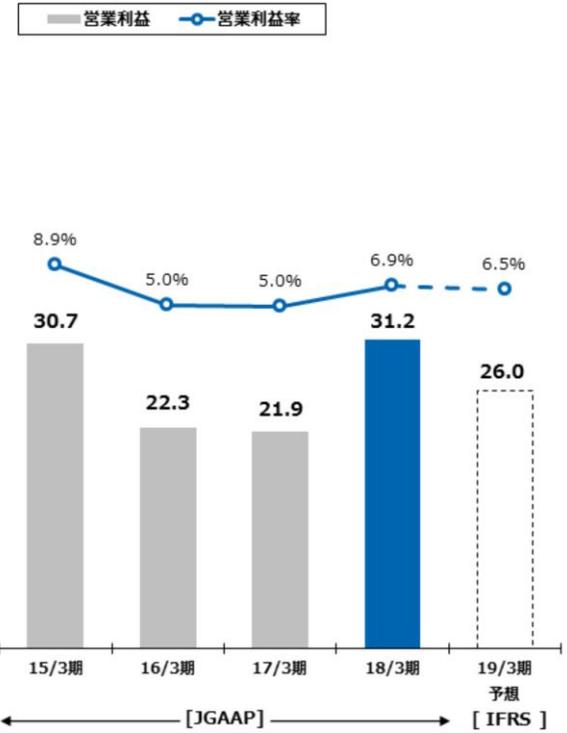
18

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

## 売上高 (10億円)



## 営業利益 (10億円)

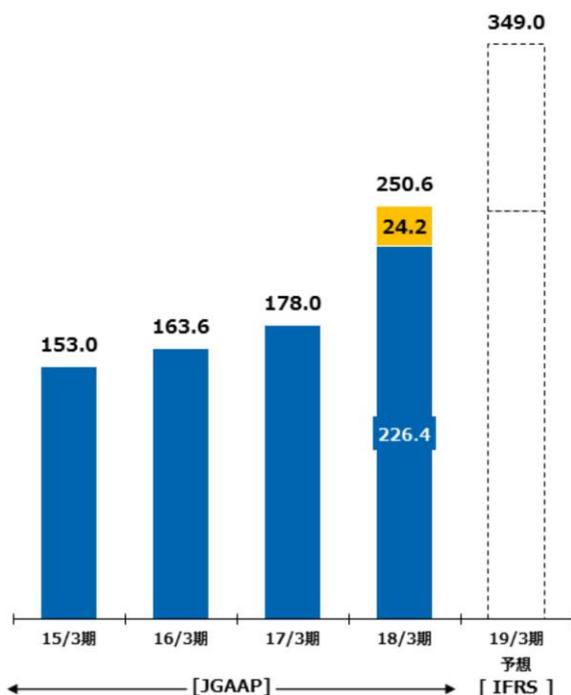


# ミツミ事業セグメント (含む統合前)

売上高、営業利益ともに、17/3期3Qまでは、経営統合前。  
17/3期4Qは3ヶ月分の管理会計ベース。18/3期以前はJGAAP

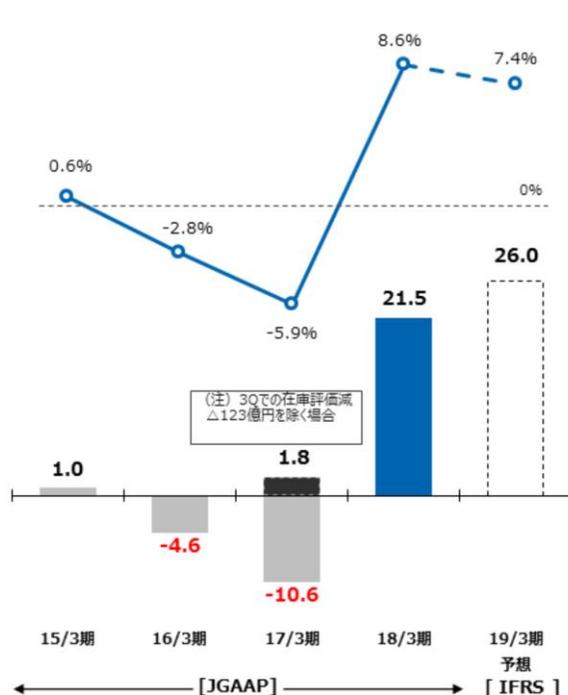
## 売上高 (10億円)

■ 契約変更に伴う売上高計上金額の増加



## 営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率

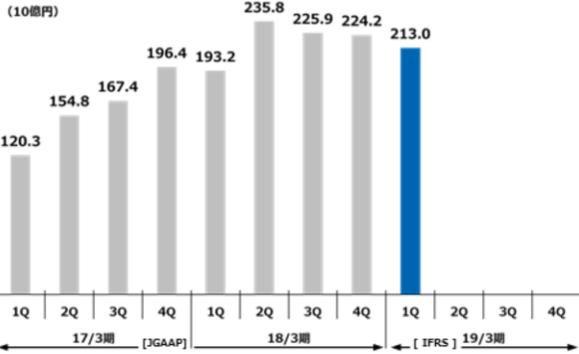


2018/8/3

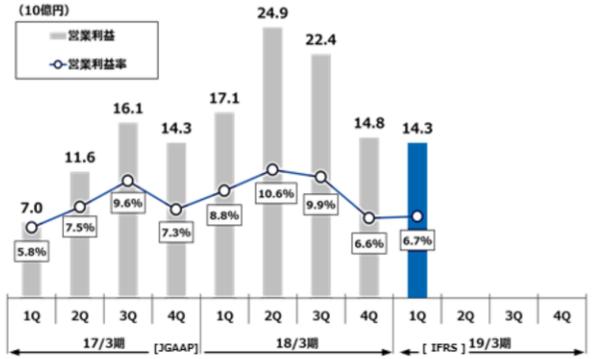
20

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

## 売上高



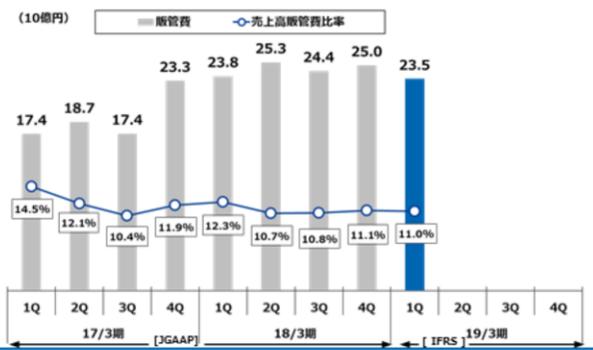
## 営業利益、営業利益率



## 親会社の所有者に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益

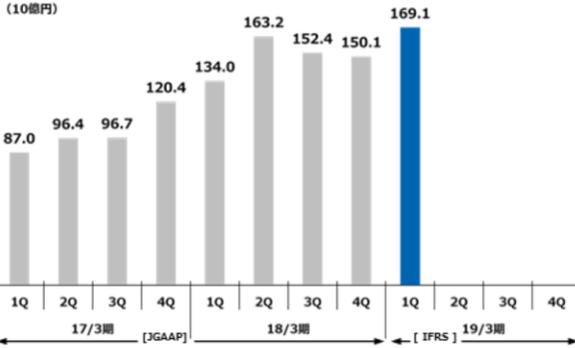


## 販管費、売上高販管費比率

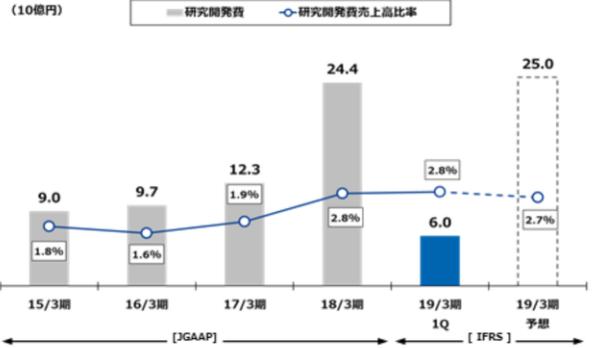


2018/8/3

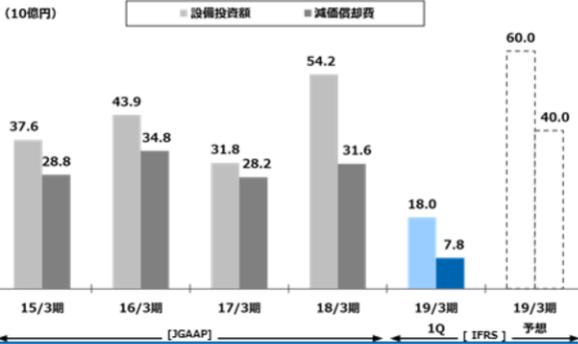
## 棚卸資産



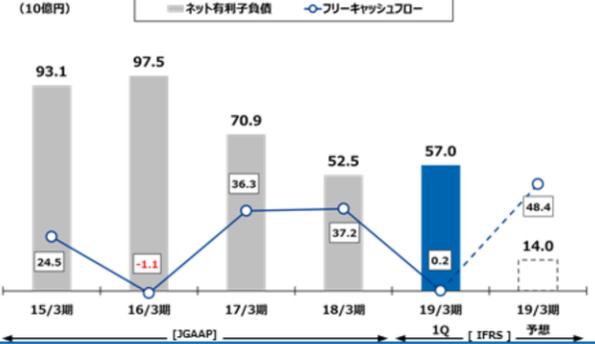
## 研究開発費、対売上高比率



## 設備投資額、減価償却費

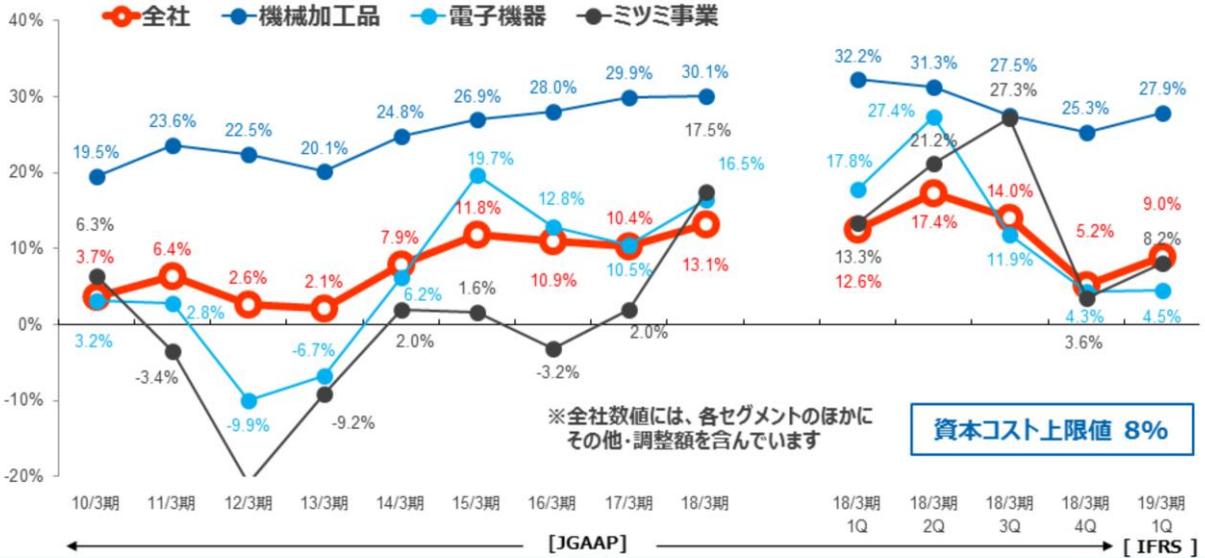


## ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー



$$\text{ミネバアミツミ版 ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益+特別損益)} \times (1-\text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形・売掛金+たな卸資産+固定資産-支払手形・買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産 (売上債権・債務、棚卸資産、固定資産) で算出



2018/8/3

23

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference



上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。